IT時事ネタキーワード「これが気になる！」（第32回）

Windows大型アップデート提供中止。ファイルが消える

2018.11.19

搭載台数6億台ともいわれる米マイクロソフトのWindows 10。年2回行われるWindowsの大型アップデートの1つ「Windows 10 October 2018 Update」の提供が10月2日（現地時間）に始まった。

ところが提供間もない6日（現地時間）、Windows 10 October 2018 Updateの一般提供が中止された。アップデートを行ったユーザーの一部から、ファイルが消失する不具合が報告され、調査を行うためだという。

Windows 10 バージョン 1809 への更新に関する既知の問題

現象	回避策
マイクロソフトは、更新後にいくつかのファイルが見つからないというユーザーからの個別の報告を調査しているため、すべてのユーザーに対して Windows 10 October 2018 Update (バージョン 1809) * のロールアウトを一時停止しました。 この問題の最新情報については、ジョン・ケーブルのブログを参照してください。	手動で更新プログラムをチェックし、更新後にファイルが見つからない問題があると考える場合は、影響を受けるデバイスの使用を最小限に抑えて、+1-800-MICROSOFT まで弊社に直接お問い合わせいただくか、お住まいの地域の電話番号を検索してください。 または、別のデバイスを使用してお問い合わせください (リンクは販売元国によって異なります)。 Windows 10 October 2018 Update インストール メディアを手動でダウンロードした場合は、新しいメディアが提供されるまでインストールしないでください。 お客様に対して Windows 10 October 2018 Update のロールアウトを再開するときに更新プログラムを提供します。

マイクロソフトの「Windows 10 の更新履歴」ページ。「Windows 10 October 2018 Update」の不具合も書かれている

執筆現在（10月17日）、マイクロソフトはまだ更新の提供を再開しておらず、再開時期のメドもたたない状況だという。なお、アップデートでファイルが消失した場合、利用を最小限にして、すぐにマイクロソフトに直接連絡を取るよう呼びかけている。

こうした事態が起きると、アップデートに対して二の足を踏んでしまう。そのあたり、どう対応すべきか、そしてメーカーはどうあるべきかを探ってみたい。

「ファイルが勝手に削除された」との苦情が相次ぐ

今回のアップデートは、描き込みや共有ができる新しいキャプチャー機能、履歴から貼り付けできたり複数デバイス間で同期できたりするクリップボードなど、多くの新機能が追加される。特にAndroidスマートフォンとの連携を強めたのが、一番の特徴だといわれる。

ファイル消失の原因は、マイクロソフトのクラウドストレージサービス「OneDrive」の重要なフォルダーを保護する機能にあったことが後に報告された。すぐに問題が起こったバージョン1809をインストールしたユーザー向けにアップデートが提供されている。だがWindows 10 October 2018 Update本体に関しては、インサイダープログラム（正式公開前のバージョンを試せる制度）の参加者向けにまず提供し、フィードバックや診断データを慎重に検討してから一般向けに再リリースする予定、とアナウンスされている。

今回のアップデートは提供後すぐに中止されたため、被害は限られた範囲にとどまったといわれている。マイクロソフトは削除されたファイルの復旧を行う方針も明らかにした。

このような「アプデ不具合」への秘策… 続きを読む